

國民學校

國民學校創設の意図と本質を解明!!!

◎巻構成と主な内容 全7巻
総冊数十三冊
●創刊号から終巻号迄を完全収録!

1 昭和十五年四月一日(創刊号)―五月二日 二冊

《創刊号》教育国策論・新師道の建設／日本教育発達史概観／新師道の建設／国民学校教育本質論／国民学校世界観と方法論／国民学校教育現実論／皇国の道と国民学校／総合教育と国民学校／近代国防と国民学校／健康指導と国民学校／国民学校教則その他／国民学校の教則を語る／国民学校実践学校の報告(3例)・・・他多数
《五月号・第二号》東亜新文化の理念／皇道の本義／日本語の進歩について／興亜教育の基本工作／国民学校経営の基礎／国民学校の学級経営／国民学校の校則を語る／個性を生かす教育の復興／文部省が消えかけた時の話／教員の福利施設／国民学校の教則を語る・座談会／歌・皇大神宮の参拝・・・他多数

2 昭和十五年六月一日―七月二日 二冊

《六月号・第三号》国際的な視野／日本の立場／最近の教育動向／国民学校の統一的経営／教員再教育に際して・春秋二期制・女子大学論
教員生活再建論・教員の教養・教員の待遇・他／現下の世界状況に鑑み国民学校教育者に希望す(9例)・・・他多数
《七月号・第四号》国土計画と教育計画／児童文化の問題／指導者としての教師／融合・連合統合／国民学校と創造教育／国民学校と作業教育／国民学校とリトミック／国民学校と書道教育／社会教育の新構想／生活理科の建設／国民学校制度論／高等国民学校／夏休みの生活指導案(5例)／わが校の国民学校実施計画(6例)／教育審議会第一回総会・・・他多数

3 昭和十五年八月一日―九月二日 二冊

《八月号・第五号・夏期講習号》原義編・国民学校校則説明要領、第一章・総論説明要領、第二章・国民科説明要領、第三章・理科説明要領、第四章・体操科説明要領、第五章・芸能科説明要領、第六章・実業科説明要領／質疑編・国民学校教則に関する質疑応答録、第一編・総論に関する質疑応答、第二編・国民科に関する質疑応答、第三編・理科に関する質疑応答など・・・他多数
《九月号・第六号》国徳の長養／国民学校制度に就いて／新体制と教育の問題・新体制と教育活動、新体制と教育の立場、教育活動の根源相、政教一体の体制、新体制と教育革新／国民学校と生活教育／国民学校と職業教育／東亜教育大会の印象／青年教師全国大会の印・・・他多数

4 昭和十五年十月一日―十一月二日 二冊

《十月号・第七号》思想と生活／国民学校の新体制／映画界の動向／教育勅語と新体制／児童文化の新体制／日本的な理数教育／国民学校課程表の解釈／国民学校の教育方法的性格／農村の錬成訓育／大国民錬成の学級訓育／新体制下の学校・学級／わが校の国民学校実施計画・・・他多数
《十一月号・第八号》家庭教育新論／教育再建と青年性／新体制と教学／教育の根源愛／新々考察法／国民学校初級学級経営の方針／国民学校所三学級経営の実際／国民学校の教育法的性格／国民学校の国防的性格／躰の問題／満洲の旅から／体錬科武道(薙刀)指導論／国民学校の建設的研究／音楽教育鑑賞教育論／国語教育の反省／教科指導の新設計・・・他多数

5 昭和十五年十二月一日―昭和十六年一月二日 二冊

《十二月号・第九号》教育の思想的背景／教育実践の新体制／新体制の学級組織／国民学校と母の会／国民学校案解釈の態度／国民学校覚え書／国民学校教師論／教科指導の新設計／国民学校新教科書の全貌・・・他多数

《一月号・第十号・新年特大号・冬期講習号》根本問題に関する研究報告・国民学校教育の方法、総合教育の認可制、国民学校教科書に対する態度、国民学校に於ける総合教授、国民学校の実践段階、国民学校経営の重点的考察、教科教授の革新原理、生活教育の徹底(他三例)／「学級経営」に関する実践報告(十一例)／「教科」研究に関する実践報告(六例)・・・他多数

6 昭和十六年二月一日―三月二日 二冊

《二月号・第十一号》戦陣訓と教育者／日本教育改革論／戦陣訓・神宮五社の参拝の記、師導随筆／科学振興教育の問題(六例)／国民学校の実践的研究(七例)／教科指導の新設計(七例)・・・他多数

《三月号・第十二号・国民学校経営号》日本に於ける学校の意味／国民学校教師の心構／国民学校の一指針／国民学校の臣道実践／国民学校の「場」的経営／国民学校の方途／全日(二十四時間)の生活教育／国民学校経営の誤解／国民学校に於ける世界観人生観の展開／国民学校を具現したる学校経営に具体要諦・他多数

7 昭和十六年四月二十八日 一冊 資料・解説

《四月号・第十三号》(終刊号・春期講習録)前編総説編・第一章(第一節―第九節)、第二章(第一節―第二節)、第三章(第一節―第二節)、第四章(第一節―第二節)、第五章(第一節―第二節)、第六章／後編実践編(体験記録・第一節―第十八節)
《資料編》国民学校令／国民学校施行規則／文部省訓令第9号(国民学校令並びに同施行規則の交付に伴い文部大臣より地方長官への訓令)／次官通達 発普二一五号(右、文部大臣の文部省訓令第9号と同時に文部次官より地方長官に発せられたる通達)／国民学校師範学校及幼稚園に関する件答申・教育審議会答申・・・等
《解説》下村哲夫(筑波大学教育系教授)

《刊行にあたり》 下村哲夫（筑波大学教授）

『國民學校』は、幻の教育雑誌である。

戦時下の教育雑誌といえ、国民学校の発足と同時に統制雑誌として登場した『国民学校総合雑誌 日本教育』（復刻版 全十二巻 エムティ出版）がよく知られているが、『國民學校』は、その刊行自体が教育研究者の間でもほとんど知られていない幻の存在だった。『日本教育』が、昭和十六（一九四一）年四月から戦後の二十二（一九四七）年八月までともかくも六年余り刊行を続けていたのに比べ、『國民學校』は、昭和十五年四月から、翌十六年三月まで、ほぼ一年間の短命に終わったせいもある。

教育審議会が、国民学校等について答申したのは昭和十三年十二月である。以後、答申に基づく制度化が進み、ほぼ二年後の十六年三月一日に国民学校令（勅令一四八号）が制定され、四月一日から小学校に代わって国民学校が発足した。本誌は、この一年前、「本誌一冊を以て国民学校の制度・理論及び實際を悉く詳知し得る新雑誌」「教育革新時代の羅針盤」「国民学校実践への邁進」を標榜して創刊された。顧問相談役に、教育審議会整理委員長として国民学校案の審議に直接かかわった文学博士・伯爵林博太郎を擁し、主幹永田興三郎編集長藤谷重雄の陣容である。

雑誌『國民學校』の創刊が、翌年度から発足する国民学校の機関誌をめざしたことはいうまでもない。実際、本誌の「国民学校実践への邁進」に果たした役割は大きい。ところが皮肉なことに国民学校の発足と同時に、統制雑誌『日本教育』の創刊にともなう雑誌廃合の憂き目にあつた。本誌もまた広い意味での国策雑誌には違いないが、その後の統制雑誌には見られないある程度幅のある編集方針がとられている。その意味で、戦時下の初等教育の実態を伝える好個の資料であろう。『日本教育』に続いて、幻の教育雑誌『國民學校』を復刻できたのは、編者として望外の幸せである。教育関係者各位に広く活用されることを期待する。

【「國民學校」発刊の辞】

發刊の辭

輝く皇紀二千六百年！八紘一宇の大理想顯現の秋！日本文化宣揚の秋！恰も我が學制改革は斷行せられ、先づ國民學校制の實施その緒につく。聖代にありて身教職に在るもの感奮興起せざるを得んや。

茲に吾等この教育の新紀元に即應し、國民學校制實踐の嚮導者たるべく、又は教育を一層一般人士に關親せしむべく、而して我が教育人をして眞に教育殉國に安住邁進せしむべく依て以て教育が新東亞建設の樞軸たる所以を明瞭すべく我等果して如何に新教育國策を實踐すべきか、新文化創造に奮勵すべきかの方途を探究せんが爲に雑誌『國民學校』の首途をなす。

卿等、教育行政家、教育實際家、同志同行の士よ、日夜皇運扶翼の大御民の教養鍊成に粉骨碎身の諸賢よ、參じて協力を送られよ！吾等いま小誌を機縁に益々教育報國の誠を致すべく渾身の努力を傾注しつゝあり。
敢て蕪辭を顧みず江湖に告げて以て深厚なる敬意を表し
旁々御支援を乞ふ。

◎関連文献のご案内！

国民学校総合雑誌

『日本教育』全十二巻

昭和十六年四月〜昭和二十二年八月迄の完全復刻！！

●監修・解題・解説／下村哲夫

◆体裁／A5判、上製、解題・解説付、平均六八〇頁

●定価／一四八、〇〇〇円（税込）

《残部僅少》